

# 7月・8月の管理ポイント

冷涼な気候を好むベントグラスにとって厳しい時期です。  
ストレス緩和対策をしっかりと夏を乗り越えましょう。

当社Webサイトにて  
バックナンバー掲載中  
<http://www.tomo-green.com/>

高温ストレスから  
ベントを守る

## ヒートファイター

ヒートファイターは、夏の厳しい暑さをベントグラスが生き延びる為のお勧め資材です。ヒートファイターを処理すると、植物自体が持つ高温耐性が活性化し、通常では弱体化・致死してしまう程の高温でも生き延びられるようになります。予防処理で、ヒートファイターの効果を最大限得られます。

使用量：0.5ml/m<sup>2</sup> 散布水量：100-500ml/m<sup>2</sup> 散布間隔：14日

土壤水分環境を整えましょう

## レボ (REVO)

7月8月はベントグラスにとって厳しい時期です。沢山のストレスを抱え必死で生きています。土壤の水分環境を整え、ストレスを少しでも緩和しましょう。

レボは、「地際を乾燥させる（病害や藻を防ぐ）」「根圏の水分を少なめに保持する（気相の割合が増えるので根が十分な酸素を得られる）」「毛管水が繋がる（根が水を吸ったら、即、周りの土壤から水が供給される）」ので、土壤水分環境を、ベントグラスの生育に適した状態に保つことができます。

土壤水分環境を常に良い状態で保つため、定期散布がお勧めです。

使用量：2ml/m<sup>2</sup>/月 散布水量：200ml~500ml/m<sup>2</sup> 散布回数：1ヶ月に1回~2回

強光ストレスから  
ベントを守る

## インターセプト

夏場の強すぎる太陽光は、ベントグラスには過剰です。ベント用の日焼け止め「インターセプト」を処理して、過剰な光を防ぎ、強光ストレスによるダメージからベントを守りましょう。

使用量：1000-2500倍 散布水量：100-500ml/m<sup>2</sup> 散布間隔：7-10日

土壤中の有害物質除去

## 光合成細菌

土壤中に発生する硫化水素やメルカプタンなどは、イヤな臭いがするだけでなく、根を痛めます。光合成細菌を処理して有害物質を除去しましょう。光合成細菌は、硫化水素などを分解するだけでなく、他の有用微生物の餌となるアミノ酸やATP、ADP（高エネルギーリン酸化合物：補酵素）などを分泌し、有用な土壤微生物の住みやすい環境を作ります。サッチリムーバーと組み合わせると、サッチを効率よく分解できます。

使用量：1~2ml 1ℓ/m<sup>2</sup>散布 月1~2回

害虫の発生に  
あわせて散布

## スティンガーフロアブル

7月8月は、スジキリヨトウ、シバツトガ、タマナヤガの重要な防除シーズンです。特に鱗翅目害虫は発生ピークが長く、数種類で混在して芝生を食害するので、殺虫剤のローテーション散布が必要です。スティンガーフロアブルは、グリーンで1ヵ月、ラフFWで2ヶ月以上の効果が期待できるので、ローテーション散布の基幹剤としてご使用いただけます。

使用量：スジキリヨトウ 0.035ml/m<sup>2</sup> シバツトガ\* タマナヤガ\* 0.05ml/m<sup>2</sup>  
散布水量：50-500ml/m<sup>2</sup> 使用時期：発生初期

芝の三大ストレス ②高温 ③強光

暑くなり、日差しも強くなってきました。ペントグラスにとって厳しい季節がやってきます。生育適期に伸ばした根を出来る限り衰退させないように、ストレス緩和対策をとりましょう。

今号は、前号に続き芝の三大ストレス 残り2つの「高温ストレス」と「強光ストレス」を取り上げます。

②高温ストレス

対策方法

●土壌水分を少なめに維持する

水より空気の方が比熱が小さいので、土壌中の気相比率が高い方が、植物自体が熱くなりにくくなります。ただし乾燥し過ぎないように十分注意しましょう。

～空気の方が熱が伝わりにくい一例～  
100℃のお湯に浸かると火傷するが、  
100℃のサウナに入っても火傷をしない



●植物自体が持つ「防御機能向上」スイッチをONにする

植物には、生存の危機に陥った際に生き延びる為の機能がいくつか備わっています。そんな機能の中の1つに、「誘導耐熱性」があります。

植物は、急な温度上昇を感知すると、防御機能向上スイッチをONにし、ヒートショックプロテイン(HSP)と云う特殊なタンパク質を合成するようになります。HSPは、壊れたタンパク質を補修し、光合成を活性化させ、植物の生理機能を整えます。HSPが合成されていれば、通常では弱体枯死してしまう高温に晒されても生き延びることができます。

防除機能向上スイッチをONにする方法

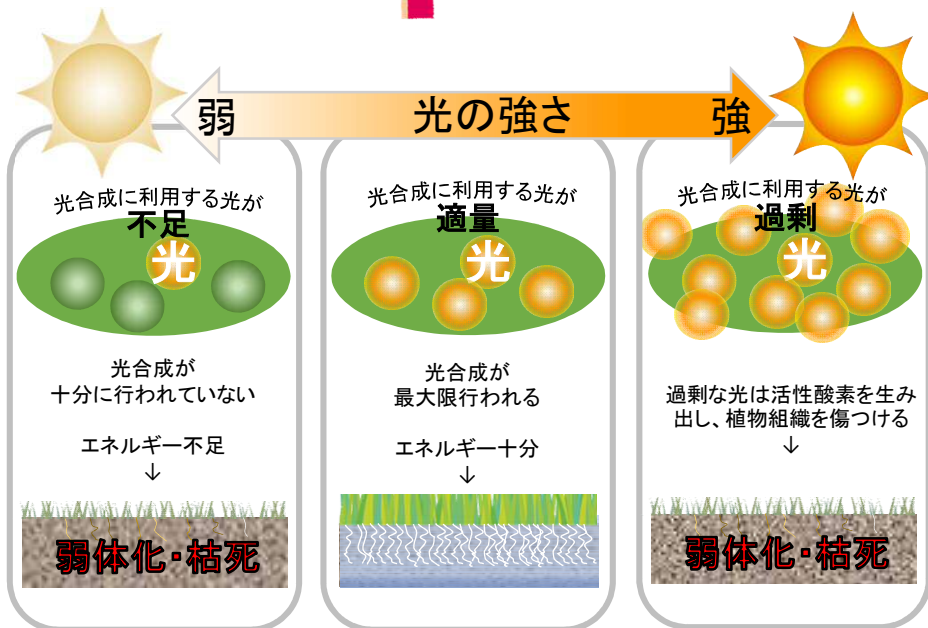
- 致死に至らない程度の弱いストレスを数回かける(加減が難しい)
- 防御機能向上スイッチをONにする資材を用いる



③強光ストレス



植物は光が当たれば当たるほど元気になると思われがちですが過剰すぎる光は毒になります



対策方法

●遮光する

- 遮光ネット等で強すぎる光を防ぐ
- 遮光資材を処理する  
不要な波長の光だけを遮光し、作業性も良いのでお勧めです

●ストレスを減らす

冷涼な気候を好むペントグラスにとって、日本の夏はストレスが多い環境です。1つ1つのストレスが少なくても複数のストレスを抱え込むと、簡単に許容量を超えてしまいます。緩和出来るストレスは出来る限り緩和しましょう。